地域展

発掘された一宮

～福塚前遺跡発掘調査速報～

一宮市博物館

Ichinomiya City Museum

発掘された一宮 ～福塚前遺跡発掘調査速報～

濃尾平野のほぼ中央に位置する一宮市は、木曽川･長良川･揖斐川の木曽三川の運んだ土砂から成る沖積平野上にあります。肥沃な大地により、古くから人々が生活を営んでおり、市内の遺跡は滅失したものも含めると400近く存在します。

このたび、市道福塚線･今伊勢北方線の拡幅工事に先立ち、福塚前遺跡の発掘調査を行いました。平成30(2018)年と令和元(2019)年の2期にわたった今回の調査では、古墳の周溝が調査区の全域で発見され、土坑墓と考えられる遺構も見つかったことから、この地域が墓域であることが明らかになりました。他に、中世の方形土坑、田の跡と思われる遺構、近世と考えられる地震の痕跡が見つかっており、古墳時代から中世、近世にかけて人々の生活の様子が垣間見える成果となりました。昭和46(1971)年に初めて行われた調査の成果からは予想もつかなかった結果となり、今後地域の歴史を解明していく上で、重要な資料になると考えられます。

現在整理作業の最中ではありますが、いち早く発掘成果を見ていただきたいとの思いで本展を開催しました。福塚前遺跡の調査成果を、出土遺物や写真パネルなどを通じてご紹介します。また本書の最後に発掘調査を実施する際の流れを掲載いたしましたので、発掘調査の実態を知っていただければと思います。

本展をきっかけに地域の歴史や文化に親しみを持ち、発掘調査ひいては埋蔵文化財に対して、少しでも関心を持っていただければ幸いです。

令和2年11月

一宮市博物館

目　次

福塚前遺跡とその周辺 ……3

発掘調査のあゆみ ……4

福塚前遺跡発掘調査速報 ……6

付録 発掘調査の流れ ……10

コラム①　遺跡の範囲の決め方 ……4

コラム②　発掘調査のキホン ……11

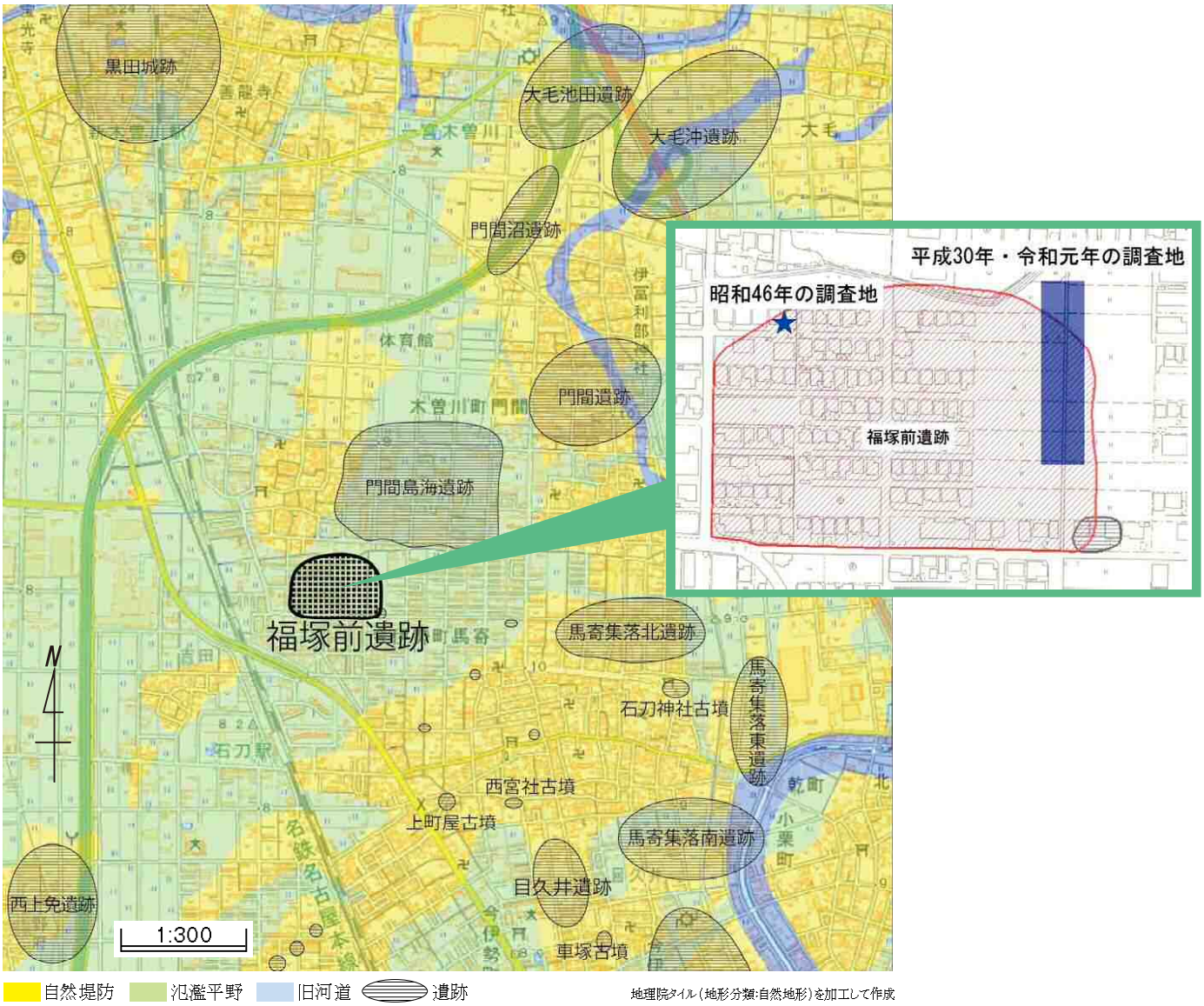
凡例

1. 本書は一宮市博物館令和2年度特別展「発掘された日本列島2020－新発見考古速報－」(会期:令和2年11月28日～12月27日)にあわせて開催する地域展「発掘された一宮～福塚前遺跡発掘調査速報～」(会期:令和2年11月28日～令和3年1月31日)の展示解説書である。
2. 本地域展の企画･本書の編集は、当館学芸員　瀧 はる香が行った。
3. 本書掲載の資料及び写真は、全て当館所蔵である。また、出品資料の全てではない。

福塚前遺跡とその周辺

福塚前遺跡は、一宮市今伊勢町馬寄字福塚前にある弥生時代から中世の遺跡です。一宮市の北部に位置し、標高8m～9m前後の氾濫平野に展開しています。遺跡の北端に日光川水系野府川の支流である門間川が流れ、平成17(2005)年の合併以前は旧木曽川町との市境にあたりました。かつては見渡す限り水田が広がっていましたが、現在はほとんどが埋め立てられ、住宅地になっています。

遺跡の周辺には古墳が多く存在し、今伊勢古墳群を構成しています。半径1km圏内には、7世紀代の石刀神社古墳、西宮社古墳、上町屋古墳、南東1.5km地点には4世紀中葉～5世紀前半の車塚古墳、さらに墳丘が確認できない滅失古墳も数多くあり、古墳造営が盛んな地域だったと言えます。また、北へ約650m先に門間遺跡、890m隔てて門間沼遺跡、さらに1.3km離れ、大毛沖遺跡、大毛池田遺跡と、市域の古墳時代を代表する遺跡が分布しています。



福塚前遺跡と周辺遺跡図

発掘調査のあゆみ

福塚前遺跡発見！

福塚前遺跡が発見されたのは、今から約50年前のことです。発見された場所は、葉栗郡木曽川町福塚（現：一宮市木曽川町門間字福塚前）の南端に隣接する水田でした。昭和46(1971)年4月上旬、この地では水田を掘り下げて砕石をいれる宅地造成工事の最中でした。近所の住民が土を取った跡地に、井戸の跡と弥生土器の破片が散布していることにたまたま気付き、博物館の前身である市史編さん室へ連絡をしました。そして、緊急発掘調査が行われることになったのです。

この時の調査で確認できたのは、弥生時代のピット(小さな穴や細い穴状の遺構)と中世の井戸遺構です。ピットは東側の断面に3か所、西側の断面に1か所見られました。その内2か所は壊れており、全形がしっかりと確認できたのは2か所です。大きさは幅約1m、深さが約50cmで、内部からは深鉢や壺といった土器の破片や焼土が見つかっています。

井戸遺構は、地表から約110cm下に井桁(いげた)(井戸のふちを囲んだ木枠)の最下段だけが残っていました。一辺110cm程度の大きさで、井戸底からモモの種子や山茶碗の破片が出土しています。

その他、工事後の表面採集で、弥生土器の壺や剥片(はくへん)石器などが見つかっています。

西側ピット出土状況(一宮市 1974『新編一宮市史資料編4』より)

出土した弥生土器(上段)と石器(下段)

コラム① 遺跡の範囲の決め方

遺跡の範囲は、今まで行った発掘調査の成果と遺跡分布調査（遺跡踏査）で主に決めています。

遺跡の存在するところでは、土器や石器などの遺物が田畑の耕作などで地表に出ていることがよくあります。遺跡分布調査とは、地表面に遺物がないかをくまなく歩いて確認する調査です。見つけた遺物の量や時代、地形などから総合的に判断して遺跡かどうかを決定していきます。

一宮市では平成24年度・平成25年度に市内全域の遺跡分布調査を行いました。その成果は一宮市地図情報サイト「138マップ」の「埋蔵文化財情報」(https://www.sonicweb-asp.jp/ichinomiya/map?theme=th_9#scale=1875)から見ることができます。

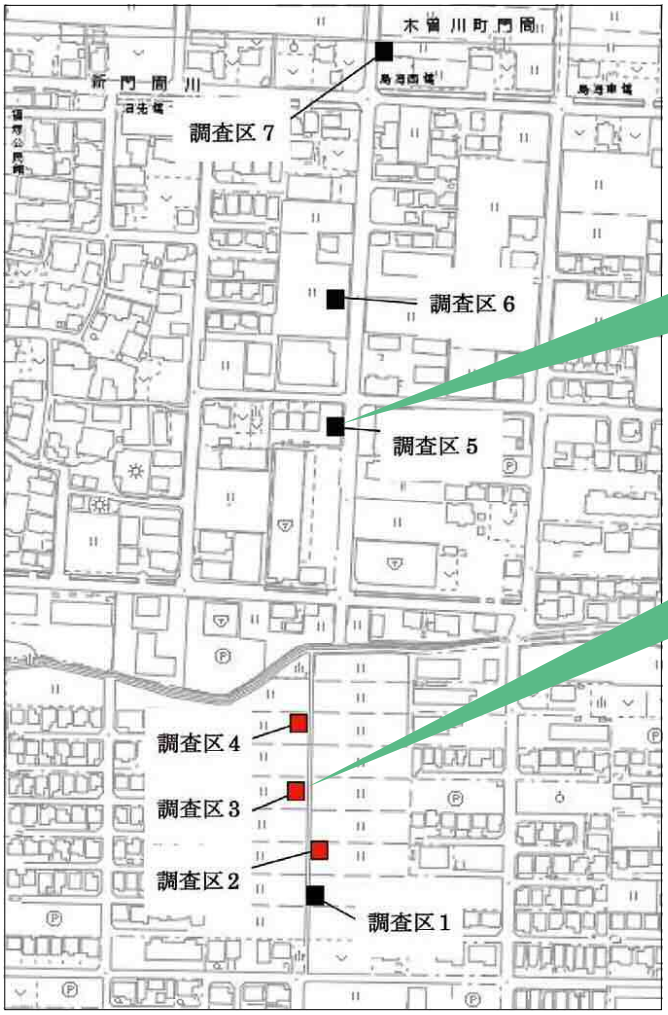
雪舞う中の試掘確認調査

平成28(2016)年の冬、門間島海(かどましまうみ)遺跡と福塚前(ふくづかまえ)遺跡の2つの遺跡の上を通る市道の拡幅工事の届出を受けました。遺跡が壊れる範囲としては狭かったものの、「道路」という半永久的に残る構造物を作るということで、試掘確認調査を行うことになりました。市道の拡幅予定範囲に合わせて7か所の調査区を設定し、年の明けた平成29年1月末から2月上旬、雪がちらつく中、試掘確認調査を実施しました。

今伊勢町側にある調査区2～4からはそれぞれ何らかの遺構や遺物が見つかりました。特に調査区3は溝状の遺構が明瞭に見つかり、土器の破片が固まって出土しました。対する木曽川町側にある調査区5～7では何も見つかりませんでした。

この結果と工事計画をふまえ、調査区2～4を含んだ南北約160m、東西約10mの調査範囲で調査を行うことに決定しました。一宮市が主体となって発掘調査を行うのは平成初頭以来、久しぶりのことになりました。

平成30年に発掘調査を開始し、進めていく中で、古墳の溝と思われる遺構が調査範囲外でありながら道路工事の対象範囲へ伸びることが明らかになりました。そのため、急遽調査範囲を広げ、令和元年に追加の調査を行いました。



試掘調査区位置図。赤色の調査区で遺構や遺物が確認されました。

調査区5の試掘結果。遺構や遺物は確認できませんでした。

調査区3の試掘結果。溝状の遺構が見つかり、その中に土器(赤丸部分)が固まって出土しました。

福塚前遺跡発掘調査速報

調査概要

◆調査期間：①平成 30 年 11 月 5 日～平成 31 年 3 月 25 日　②令和元年 11 月 5 日～ 12 月 26 日
◆調査位置：一宮市今伊勢町馬寄字北塚本地内ほか
◆調査原因：市道拡幅工事
◆調査面積：①1,600 ㎡　②360 ㎡
◆調査主体：一宮市教育委員会

出土遺物

調査区の面積に対して出土遺物が少ない遺跡でした。水田であったためか完形が少なく、破片が大半を占めます。

須恵器（すえき）

古墳と考えられる遺構から多く見つかっています。器種は杯が一番多く、短頸壺（たんけいこ）や甕（かめ）の破片も出土しています。

土師器（はじき）

出土量が一番多く、遺跡全域で見つかりました。S字甕または台付甕と考えられる口縁部や脚部などが見つかっています。

時代	遺構	遺物	特記遺物
古墳	土坑、溝	須恵器、土師器	滑石製紡錘車、管玉
中世	土坑	山茶碗、中世陶器、石製品	―――
近世	土坑	陶磁器	動物の骨

陶磁器

遺跡の南側でよく見られました。室町時代の終わり頃から江戸時代初期の瀬戸や美濃の製品が出土しています。かなり数は少ないですが、輸入陶磁器も見つかっています。

石器

遺構の外で見つかったものが大半です。石鏃のほかに中世の敲石や火打石も出土しています。

1

紡錘車

滑石製で星のような刻み文様が特徴的な紡錘車です。東壁のトレンチを掘削中に見つかりました。文様は裏まで丁寧に彫りこまれています。

2

動物の骨

馬の歯が出土しました。他の出土遺物との関係から、江戸時代以降のものではないかと考えられます。

福塚前遺跡発掘調査速報

①古墳時代の墓域

古墳の溝が調査区全域で確認できます。調査区外に伸びているものもあるため、はっきりとはわからないものもありますが、溝の形状から円墳だと考えられます。また、土坑墓（どこうぼ）と考えられる遺構も見つかっています。

直径約10mの円周がはっきりと見えます。墳丘部分は後世の土地改変で削られたと考えられます。

■土坑墓（どこうぼ）か？

2か所見つかっています。深さや大きさなど性質が若干異なりますが、どちらも炭化物や土師器の台付甕が出土しています。

今回の調査で一番大きな遺構で、最大幅が3.7m、最深部で66cmあります。須恵器の長頸瓶（ちょうけいへい）や土師器の台付甕が出土しており、古墳の周溝であると考えられます。半径の大きさを確定するために令和元年に北側の追加調査を行った結果、復原推定で径約35mの円墳だといえます。二重周溝の可能性もありましたが、令和元年の成果も合わせて判断するとその可能性は低そうです。

②地震の痕跡

西の調査区の南側では、他と明らかに土質が異なる白い砂が見られました。調査区の西壁をみると、黒い土の中に下層の白い砂が混じっているのが確認できます。おそらく地震によって下の砂が吹き上がってきた「噴砂（ふんさ）」だと考えられます。

③その他の成果

(a) 方形土坑

調査区全域で確認されます。遺物がほぼ出土せず、情報量が大変少ない遺構です。大きさは2m前後で、ある程度密集した状態で見つかります。各かたまりで一定の方向を指しているため、何らかの意図があると考えられますが、詳細は不明です。

b) 田か?

調査区西側の中央より少し南側では、他の遺構より粘性の高い土質となっており、何かが歩いた痕のような斑点が見られます。ただ明確なあぜ道や溝などが確認できなかったので、田であるという確証は持てませんでした。今後、この遺構の土を科学分析にかけ、実態を明らかにしていきます。

現在整理作業中であるため、各遺構の詳細な時代や性質などは、これからの分析や検討によって、より明らかになっていくはずです。その成果は発掘調査報告書の刊行をもって、皆さんにお知らせいたします。

付録　発掘調査の流れ

発掘調査というと、スコップとハケを手に丁寧に掘っているイメージがある方は多いのではないでしょうか。もちろんそれも発掘調査ではありますが、ほんの一部にしかすぎません。実際はどういった流れで行われているのかを、福塚前遺跡の発掘調査を例にして、発掘調査の流れを説明します。

0. 試掘確認調査で遺跡の情報を確認

開発行為（主に工事）の計画に合わせて試掘確認調査を行い、遺跡の範囲や規模、内容を確認します。この結果に従って調査の費用や期間が決定するため、見落としがないように行います。

1. 機械掘削

「0. 試掘確認調査」で遺跡が出てくる深さが判明しているため、そこまでは重機で一気に掘削します。掘削後は人の手で地面を丁寧にならしていきます。

※写真はイメージです

2. 遺構検出

土の色や土質の違いを見て、遺構を確認していきます。間違えると遺跡を破壊することに繋がるため、一番慎重に行う作業です。見つけた遺構にはマーキングをし、わかるようにします。

3. 遺構掘削

多くの方がイメージしている「発掘調査」がこの作業にあたります。人の手で遺構を慎重に掘り下げていきます。重労働ですが自分の手で何かを見つけられる一番楽しい作業です。

4. 記録

写真や図面で遺跡の記録を行います。最近は簡易な航空写真であれば、ドローンを飛ばして撮影することが増えました。図面も写真で撮影したものから書き起こすことができます。

◀左上の○の人がドローンを操作しています。

5. 埋め戻し

2～4までの作業を繰り返し、全て終了した後は、原則埋め戻しを行い、元の状態に戻します。そして発掘調査を行った場所では、開発行為が始まります。

6. 整理作業 イマココ

調査と同時進行で行われます。見つかった遺物を洗い、どこで出たのかわかるように番号（注記）をつけます。そして発掘調査報告書の刊行に向け、遺物の実測を行い、発掘で得た情報を整理します。

7. 発掘調査報告書の刊行

発掘調査報告書の刊行をもって、発掘調査は完全に終了します。福塚前遺跡は現在ここを目指して、整理作業を進めている段階です。

コラム② 発掘調査のキホン

そもそも発掘調査は何のためにするの?

遺跡は「埋蔵文化財」すなわち、地面に埋蔵されている文化財にあたります。埋蔵文化財は原則、地面の下で保存（現状保存）することになっています。しかし、開発事業の関係で、現状保存が難しい場合があります。そのため、発掘調査を行い、「記録保存」という形で、埋蔵文化財を保存することにしています。

発掘調査の種類

①緊急調査

開発事業でやむをえず遺跡が壊れてしまうときに行う調査のことです。日本で行われている発掘調査の9割以上を占め、今回の福塚前遺跡の調査もここに該当します。発掘調査開始後に重要な遺跡だと判明した場合は、工事の計画を変更する例もあります。

②学術調査

遺跡を保存することを目的として行われる調査です。平城京跡や藤原宮跡など、範囲が判明している重要な遺跡に対して行われます。何年もかけて行われることが多いです。

③遺跡整備のための調査

観光などに活用することを目的に、現状保存が決定している遺跡や史跡を調査します。近年増えており、わかりやすい事例だと名古屋城があげられます。①の緊急調査では全てを掘りきるまで行いますが、整備のための調査は保存に影響が出ないように行うことが原則です。

関連催事

福塚前遺跡発掘ウラ話

日　時：①令和2年12月5日(土)
②　〃　12月23日(水)
③令和3年1月15日(金)
④　〃　1月24日(日)
すべて午後4時～ 20分程度

令和2年度 地域展「発掘された一宮 ～福塚前遺跡発掘調査速報～」展示解説書
令和2年(2020)11月28日発行
編集･発行:一宮市博物館　〒491-0922　愛知県一宮市大和町妙興寺2390
印刷･製本:三井堂株式会社